

所属 経営学部 職名 教授

氏名 鈴木 恵美子

< 研 修 概 要 >

本研修の目的は「スペイン語の統語的バリエーション研究」であるが、新型コロナウイルスの影響でメキシコ研修の開始が先延ばしになったため、出発までの期間(2021年4月1日～11月23日)、東京外国語大学にて時制用法の地理的バリエーションに関する文献調査および用例分析、アンケート調査の準備を行った。その成果は論文「伝達動詞と名詞節の時制について—メキシコとスペインの新聞記事の分析—」(『スペイン語学研究』36号、東京スペイン語学研究会, 2021年)、日本イスパニヤ学会での発表「間接話法における時制について—アンケート分析を中心に」(2021年10月10日)等にまとめることができた。

2021年11月24日のメキシコ研修開始後は、グアダラハラ大学にて研究、研究者との勉強会、日本語の授業などを行った。研究については、現地調査(メキシコの口語スペイン語の用例収集、街頭の看板、広告などのスペイン語調査等)を進めるとともに、アンケート調査、収集データの分析などを行った。このうち口語スペイン語の用例収集では、メキシコ人インフォーマントの協力を得て、俗語を含むメキシコスペイン語の語彙、表現および用例を収集した。今後、地理的バリエーションの分析に活用する予定である。またアンケート調査では、スペイン語の時制(点過去、現在完了、未来、過去未来など)の用法および時制の照応を調査するための設問を用意し、大学関係者を中心にオンラインで回答を収集した。今後分析をさらに進めてメキシコスペイン語の特徴を考察したい。

また、調査のための海外出張を実施した(グアテマラ:2021年1月13日～1月16日および2022年7月5日～7月8日、コスタリカ:2022年12月18日～12月21日)。現地の博物館等を訪問、植民地時代の文書や歴史的資料、絵画等を見学し資料を収集するとともに、街頭の看板や広告を記録、現地の新聞や文献を収集し、各国のスペイン語の特徴を調査した。

本研修では言語教育に関する知見を深めることも目的の一つとしていたが、これについては、グアダラハラ大学日本研究センターが開講する日本語の授業を担当する機会をいただいた。日本語とスペイン語を対照させることで、各言語の構造や教育法について新たな視点を得ることができた。さらに、同センターによるウェビナー(Webinar Internacional de Estudios sobre Japón 2021. Educación y comunicación a partir de la pandemia [2021年10月14日])にて発表を行い、日本とメキシコのコロナ禍における様々な教育上の工夫について情報を共有した(発表題目: “Aprendiendo entre todos (Manabi-ai) — Retos de estudiantes y profesores durante la pandemia en Japón—”)。また、メキシコと日本の言語教育をテーマに講演する機会にもめぐまれ、メキシコ人研究者や学生と有意義な意見交換を行うことができた(グアダラハラ大学日本研究センター主催講演会[2023年3月17日]、発表題目: Similitudes y diferencias en la enseñanza del japonés y del español como L2)。

以上、研修を通じて貴重な文献やデータを収集できたのみならず、研究・教育に関する知見を深め、新たな経験を積むことができた。ここで得られた知見や経験を今後の研究や教育に活かしていきたい。最後に、成蹊大学の研修制度を利用させていただいたことにこの場をお借りして感謝申し上げます。

以上